

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500483
法人名	株式会社 松寿
事業所名	グループホーム松寿苑 (ユニット名 洋棟)
所在地	福岡県大川市本木室1005-8
自己評価作成日	平成22年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な暮らしができるように努め出来るだけストレスなく毎日の生活を送っていただけるよう支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、以前は木工所を営まれていた自宅兼作業場を改築したものであり、自宅部分にあたる「和棟」ユニットと作業場部分の「洋棟」ユニットでは、構造や雰囲気は全く異なっている。「和棟」は二階にも居室があるため、階段には昇降機が設置されており、実際に車イスの利用者も安全に昇降が出来る。「地域と共に自分らしく笑顔で安心して暮らせるわが家」という理念の下、施設長や管理者は一般職員の模範となるよう日々行動し、意見や要望も汲み取り、サービスの質の向上に努めている。利用者職員、職員同士もお互いに認め合い、時にはそっと見守り、そっと声をかけ、時折みんなで笑いあう姿がみられた。施設長は、地域や同業者との交流、日常的な外出等についてももっと充実させたいと考えており、今後の発展を期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の見える所に掲げ利用者が自分の家のように安心して暮らせるよう努めている	現在の理念は、これまでの外部評価等を参考に「地域と共に自分らしく笑顔で安心して暮らせるわが家」としている。職員は、毎月の会議で理念の再確認を行い、職員採用時には、施設長や管理者が必ず伝え、日常のサービスで実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したいが風邪や体調不良等でなかなか参加できていない	日頃から近所の神社や花栽培のビニールハウスへ散歩に出かけており、地域の住民等とあいさつを交わしている。また、ホームにボランティアが来て、三味線等の演芸を披露して下さる際は、家族等や地域の方を招いて利用者と共に楽しめるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かした地域貢献は出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の意見を念頭に入れサービス向上に活かしている	利用者および家族の代表者・市の担当者・民生委員・地域代表者・施設長・管理者・ケアマネジャー・スタッフが参加して二ヶ月ごとに開催されている。ここ数回の会議ではホームの現状報告だけで終わってしまっている。	会議ごとに議題を定めておくと、議論がしやすくなると考えられます。会議の年間計画を作成し、議題によって専門性のある方に参加を依頼するなどの工夫を行い、サービス向上に活かせるようにしていくことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたりわからない事や困った時には相談している	最近ケアマネジャーが交代したばかりであり、市の担当者と早く関係が築けるように、毎週のように市役所へ足を運び、助言や指導を受けている。また、施設長は、大川市内のグループホームの相互交流を活発にしたいと考えており、市の担当者に相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はせず戸が開いたことがわかるよう音が鳴るようにしている	職員は、外出希望の多い利用者やオムツに抵抗のある利用者の事例を通し、日常のサービスや毎月の職員会議の中で身体拘束をしないケアのあり方を学んでいる。防犯上、18時から9時までは玄関等の出入り口は施錠している。身体拘束禁止マニュアルを整備している。	全ての職員が身体拘束に該当する行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアが実践され続けるために、その都度事例を検討するだけでなく、計画的な研修を繰り返し行うことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴中に身体確認をしている 又小さな傷も上席者に報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話し合いの場をまだ設けておらず活用できていない	ホーム利用開始前から成年後見制度を利用されている利用者が1名おり、職員は制度の概要を理解している。ホームには説明用の資料がなく、利用者や家族等に対して制度の紹介等を行ったことがない。	全ての職員が、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持ち、制度の理解を深めるとともに、利用者が必要に応じて活用できるよう、公的パンフレット等の資料を用いて本人、家族等への啓発を行うことが望まれます。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行い理解や納得を図っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いたり会話の中から意見、要望を聞くようにしている	全家族が毎月ホームを訪れてもらうように、利用料金は現金支払いとしており、来られた際には小遣い帳や直近の生活状況等の記録を提示し、意見や要望を伺うようにしている。個別のケアに関する相談が多く、利用者や家族等の思いを大切にできるよう、全職員で話し合っ対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を開き意見交換を行っている	職員会議を毎月行っており、施設長と管理者、職員がお互いに意見を交換している。施設長や管理者は、普段から職員が話しやすい雰囲気作りに努めており、職員も気軽に相談が出来る。最近ではホーム内の臭い対策を話し合い、空気清浄機の買い替えに繋げることができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握しているが環境や条件はまだ不十分な所もある		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に関しては基準は設けていない 職員には得意分野を見つけ能力を発揮できるよう配慮している	ホームでは、10代から70代までの男女がお互いの能力を尊重し、助け合いながら働いており、施設長や管理者は、障がいのある方も積極的に採用したいと考えている。社会参加や自己実現のために、勤務の調整に配慮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	採用時に説明をしているが気付いた時にはその都度注意話し合いをしている	施設長、管理者や事務長は、新任職員研修や現任職員の会議の中で、利用者の人権を尊重するための接遇や秘密保持について指導し、普段から一般職員の模範となるように努めている。外部での研修を受講した場合は、職員会議の中で報告(伝達研修)を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力に応じ研修の参加を募っている 研修報告書を作成してもらい他の職員にも報告するよう促している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の意見交換会が年一回ある位でまだサービスの質の向上には至っていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しができる方には耳を傾けるようにしているが困難な方には日常生活、会話の中から見つけていくようにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が職員と話し合いながら安心して任せられるような関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が一番良いのか家族、本人と話し合いよりよい方法を見つけていくよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り寄り添いコミュニケーションをとることで家族の様な関係に近づけるよう努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を家族にも把握して頂き無理の無い程度の協力を仰いでいる 又家族の気持ちに寄り添い共感することで関係の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で馴染みの人の名前や場所を伝えることで関係が途切れないよう努めている	利用者が自宅におられる時と変わらぬように、複数の知人が遊びに来られたり、外出に誘いに来て下さるため、家族等の了解を得ながら必要な支援を行っている。また、利用者が行きつけの美容室や買物先などに外出を希望される際には、家族等と相談して同行する等の支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりあいを持つことが嫌な方もいるので本人達に任せ見守りを行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもいつでも相談に来ていただけるよう家族に伝え今の関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向の把握に努め困難な方には本人本位の支援を心がけている	日常の関わりの中、話の内容によって居室やリラククスできる場所に移動し、個別にゆっくりと話を聞くようにしている。意思表示が困難な利用者であっても、隣に座ってスキンシップをとり、表情や仕草の変化からその思いを汲み取って記録に残し、職員が共有できるようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を伺いこれまでの暮らしの把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、健康チェック表等に記録を残しながら目を通すようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員、家族、主治医等からの情報を元に介護計画を作成している	日常生活を把握し、本人や家族の意向、かかりつけ医等の意見を取り入れ、職員会議で検討して介護計画を作成している。モニタリングを毎月行っており、本人の状態に変化がある時は家族を交えて関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングや担当者会議が、個別に記録および整理されていないため分かり難くなっています。ホーム内で様式を定めるなどの工夫を行い、個別に記録して整備することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録や日誌を毎日書き残し全職員に目を通すようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を重視し柔軟な支援やサービスに取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の要望があれば支援できるよう取り組んでいる		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には家族が付き添って頂いているが出来ない時は苑より同行している 又受診にいけない方には往診を依頼している	かかりつけ医は本人・家族が自由に選択出来る。家族が本人の健康状態を把握出来るように、受診には家族が付き添うようにしているが、必要に応じて職員が代行したり、協力医の往診を受けることも可能である。家族が付き添えなかった場合は、受診結果を電話等で報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状の変化、薬の変化等があった時はその都度報告している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診で来られる病院関係者との関係づくりは出来ているがそれ以外の病院とはできていない		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や主治医も交えて話し合いを行い全職員で支援できるよう取り組んでいる	「看取り等同意書」を作成しており、入居時に本人・家族へ説明し、同意を得ている。これまでに看取りの直前まで支援したことはあるが、最終的に看取ったことはない。重度化された利用者や家族には、ホームで可能な支援内容を改めて説明し、今後の方針を話し合うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医の先生が来られたときに質問や対処の仕方を聞いている位で定期的な訓練はできていない		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡網やマニュアルを作成しているが地域との協力体制は築けていない	年二回、昼夜を想定した避難・通報・消火訓練を行っており、緊急連絡網やマニュアルは食堂に見やすく貼り出してあるため、職員は避難場所や経路、通報手順を理解している。地域の消防団にホームへ来てもらい、建物の構造や消火器の設置場所の確認をしてもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないよう常に心がけている	特に言葉かけには注意し、一人ひとりを敬う心づかいをしている。更衣、入浴やトイレ介助の折には、利用者が恥ずかしい思いをしないように配慮している。また、記録類は事務室に保管し、人目にふれないようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に確認し拒否がある時は無理強いないよう心がけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりを作らず本人ペースで過ごしていただけるよう、又希望がある時はそれに添えるよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望されるときは理髪店や買い物に同行し1~2ヶ月に一度は訪問理容を利用している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いを希望される方には食器洗いや食器拭きをお願いしている 食事の形態も個々にあわせて代えている	食事は、当日の食材や利用者の希望、最近の献立を勘案しながら専任の調理員が作っている。利用者と職員は、簡単な下ごしらえや準備・後片付けをお互いに協力して行い、同じテーブルに座って会話を楽しみながら食事をしている。季節ごとに、外食を取り入れる等の変化をつける工夫も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの食事量、水分量をチェック表に記入し把握するようにしている 水分量が足りない方にはジュース、コーヒーなど工夫して飲んでいただくようにしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄を施行し訪問診療からの支持を受け実施している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し声かけや誘導にてトイレで出来るよう支援している	利用者ごとの排泄サインを職員間で共有し、一人ひとりの水分摂取量や排泄の有無を時間を追って記録する等、排泄のパターンを把握することで、失敗やおむつの使用が減らせるように取り組んでいる。失敗があった際には、利用者の自尊心を傷つけない支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩、水分摂取に心がけながらトイレ時には腹部マッサージ、腹圧を行い排便間隔を把握し予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが本人の希望がある場合は入浴できるようにしている	ホームで入浴は毎日行われているが、ユニット毎に一日おきで入浴することを原則としている。利用者の希望があれば、毎日でも好きな時間に好みの湯加減で入浴できる体制はとっている。入浴を嫌がられる利用者には機嫌の良い時に声かけし、清拭や足浴等で気持ちよく清潔に過ごせるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や音の大きさなどに配慮し気持ちよく休んでもらえるようにしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があった時は朝、夕の申し送りで伝えたり日誌の連絡事項に記入している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや気分転換の支援は出来ているが嗜好品(タバコ、酒)は難しい問題である		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日に散歩やドライブに出かけている 又季節の花見を行事として取り上げている	利用者の希望や体調、気候に応じて、近所の神社や花栽培のビニールハウスへ散歩に出かけたり、買い物に行ったりしている。季節ごとに桜や藤などの花見、ドライブ、外食も行っているが、個別の外出には家族等の協力をお願いしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為お金は苑で管理している 必要なお金に関してはその都度対応している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時にはやり取りが出来るよう支援しているが内容によっては家族の勤務時間外に連絡する旨を伝えている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者と一緒に製作した貼り絵や季節ごとの作品を飾っている	「和棟」ユニットは民家、「洋棟」ユニットは木工所を改築したものであり、構造や雰囲気は全く異なっている。「和棟」の畳張りの居間にはコタツが置かれ、自宅で過ごすようなくつろぎの空間となっている。「洋棟」はひとつひとつの空間に余裕があり、車イスの方でも移動が容易であるが、リビング等では不快な臭いが感じられた。	各居室には空気清浄機が備え付けられているが、調査時は「洋棟」のリビング等で強い「臭い」が感じられた。利用者が居心地良く過ごせるように、臭いの発生を抑える等の早急な対策を講じる事が期待されます。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを3方向に置いたりテーブルセットを玄関近くに置き外を眺められるように工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごされていた時に使用していたものを持参して頂き居心地良く過ごせる工夫をしている	エアコンや空気清浄機は備え付けで、ベッドや寝具、家具などは利用者や家族の好みの物が持ち込まれている。部屋には利用者の写真や作品が飾られ、希望に応じてフローリングに畳を敷いて落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力、機能に合わせ自立して生活できるように見守り、介助を行っている		